

図書館の

東京大学附属図書館報
Vol.42 No.4 2003.9

4

目 次

危機を乗り越えて伝存した国宝・島津家文書(学内所蔵特殊コレクションシリーズNo.14) 史料編纂所教授 山本博文	45
経済学部図書館の予算制度改革をめくって(ぶっくぼすとNo.7) 大学院経済学研究科教授 廣田功	49
国際資料室EU資料展「欧州統合と拡大EU」について 総合図書館国際資料室	51
東京大学で利用できる電子ジャーナルについて - 第1回入門編 - 附属図書館情報管理課資料契約掛	53
図書館利用入門講座(付録) 論文作成に役立つツール - 文献管理ソフトの話 - 情報基盤センター学術情報リテラシー掛	56
図書館(室)ニュース	59
「ネットでアカデミック on Web」の改訂と多言語版の作成について 情報基盤センター学術情報リテラシー掛	60
携帯電話OPACに新しい機能が増えました 情報基盤センター学術情報リテラシー掛	62
9月~10月のデータベース定期講習会のお知らせ 情報基盤センター学術情報リテラシー掛	65
平成14年度附属図書館統計表	66
法学部研究室図書室がちょっと変わったのをご存知でしょうか	68

学内所蔵特殊コレクションシリーズNo.14

危機を乗り越えて伝存した国宝・島津家文書(史料編纂所所蔵)

東京大学史料編纂所教授 山本博文

はじめに

2002年3月22日、文化審議会(高階秀爾会長)は、史料編纂所(以下、本所と略す)所蔵の島津家文書を、国宝に指定するよう遠山敦子文部科学大臣に答申した。この指定は、「古文書」としてのもので、島津家文書の大部分を占める総計15,133通が国宝となった。東京大学の財産が国宝に指定されるのは初めてのことである。

薩摩藩島津家に伝存された島津家文書は、平安時代以来の文書を含む一大武家文書群であり、質・量ともに国宝に指定されるにふさわしいものである。小稿では、島津家文書の伝存の事情と、内容の特徴を紹介したいと思う。

1 西南戦争の激戦地から搬出された島津家文書

江戸時代の藩の史料は、藩主の財産としての家史料、国元で作成された藩政史料、江戸藩邸で作成された藩政史料の三種に別れる。本所所蔵の島津家文書は、おおむねの史料である。

島津家文書は(写真1)江戸時代、鶴丸城(鹿児島城)の本丸御番所、三の丸御廐の裏手「岩崎六ヶ所御蔵」、及び二之丸前の屋敷跡に新築された新文庫などに収納されていたという。明治四年、廃藩置県の後、島津家文書は、「岩崎六ヶ所御蔵」にまとめて収納されることになった。



写真1 史料編纂所特別収蔵庫

ただし の藩政史料は、明治5年(1872)夏、鹿児島県令大山綱良によって、「旧習が脱けぬ」という理由で、「藩庁の家老座・大監察局・其他公用帳簿類」など、土蔵に保存されていた史料がすべて焼却処分となった。また、 の江戸藩邸史料は、慶応3年(1867)12月25日、庄内藩ら幕府側諸藩が三田の薩摩藩邸を焼き打ちした時に全焼している。こうして、薩摩藩の史料は、島津家の家文書以外は明治初年にはすでにほぼ失われていたのである。

明治10年の西南戦争の際、西郷隆盛の軍勢は3月4日から20日にかけての田原坂の戦いに敗北し、劣勢に陥った。政府軍は、4月26日、鹿児島を占領していた。もし西郷軍が鹿児島に戻って来れば、旧三の丸に設けられた西郷の私学校の裏手にあった「岩崎六ヶ所御蔵」は、激戦地となることが予想された。

5月3日、島津家家令東郷重持は、島津家文書が戦火のため焼失することを憂え、新政府軍に文書箱の搬出を申し入れた。し

かし現地の守備隊は、東郷の申し入れを聞こうとせず、「帰らなければ斬る」と告げる。東郷は、「斬るなら斬れ」と言い、その場に座りこんだ。東郷の決死の覚悟を見た守備隊の隊長は、ついに、六ヶ所御蔵に入ることを許した。こうして、「御文書箱惣数七十九個」が無事搬出されたのである。これはひとえに主君のため身体を張って交渉した東郷の功績であった。そして島津家文書は、明治35年以降に東京袖ヶ崎邸(現在の清泉女子大学)に移送され、一部は鹿児島の磯邸に残された。

後に述べるが、この時に搬出された文書は、当時伝存されていた島津家文書の大部分であったと推測される。島津家文書は、このような文書を守る先人の努力に支えられて残されたのである。

2 薩摩藩の文書整理

前近代において、文書とは、その家の正統性を示す大切な財産であった。そのため、江戸時代の諸藩では、残された文書の整理や保存に非常に力を注いでいる。

薩摩藩における文書整理は、寛永18年(1641)幕府から『寛永諸家系図伝』編纂のための家譜書上げが命じられたことに始まる。同年、文書奉行が、次いで記録奉行が置かれ、文書の蒐集、家譜の編纂が始められた。その過程で、島津家に伝わった文



写真2 黒塗特二番箱

書の整理が行われる。慶安2年(1649)には、整理した文書のうち、貴重とされた文書が手鑑や卷子に仕立てられ、黒漆塗の文書箱(写真2)に収納された。

それ以外の文書は木箱に収められたままになっていたが、元禄16(1703)年9月3日、大御番所で管理されていた文書を細工所で裏打ちし、卷子にしようとする計画が立てられた。ところが、宝永元(1704)年9月、藩主島津綱貴が江戸で死去したため計画は頓挫し、そのまま七代過ぎた。152年目によろやく計画が復活し、安政元(1854)年正月17日、島津斉彬の代に卷子に仕立てられた。

これらの文書が『御文書』を構成しており、これは『島津家文書目録(黒漆塗箱分)』として紹介した文書にほぼ重なる。現存している黒漆塗箱には、「慶安二年巳五月吉辰 御文書之手鏡箱 八之内一」というような箱書があるものが八箱(第一、二、十、十一、十四、十五、二十、二十一箱)ある。

これらは、寸法から見て、卷子を収納するために作られたものである。島津家文書受け入れ時の収納状態が慶安2年当時のままとは考えがたいが、この時点で島津家文書の一部が手鑑や卷子に仕立てられたことは確実である。慶安2年の段階で黒漆塗特二番箱と黒漆塗箱八個に収納されたのは、文書にして800通程度である。

その後、江戸時代末期に、島津斉彬から記録奉行に抜擢された薩摩藩士伊地知季安により島津家文書の整理が行われ、この時に卷子の補修、あるいは新規の成巻がなされた。黒漆塗第一番箱や第三番箱に収められた卷子に、金泥菊花文杉軸とならんで薩摩切子切軸が使われている。このことは、これらの文書が伊地知季安によって整理・成巻されたことを示している。

3 島津家文書の概要

島津家文書の中心となるのは、島津家に伝えられた歴代の文書である。これは、江戸時代に整理され、手鑑や卷子に仕立てられ、黒漆塗りの箱に収められていた。

手鑑に仕立てられた文書は、『歴代亀鑑』2帖、『国統新亀鑑』1帖、『宝鑑』2帖、『手鑑』2帖で、文書数は360通である。特に『歴代亀鑑』には、源頼朝(次ページ写真3)・足利尊氏・織田信長らの文書を含む始祖島津忠久以来歴代の貴重な中世文書が収録されている。『国統新亀鑑』には、江戸幕府の祖徳川家康ら徳川氏関係の文書がある。『宝鑑』は関東下知状・鎮西下知状などの鎌倉幕府関係文書、足利尊氏・同直義らの御教書、室町幕府奉行人奉書などの鎌倉・室町の重要文書、『手鑑』は近衛前久ら近衛家よりの書状類を収めている。

238巻の『御文書』と名付けられた卷子に仕立てられた文書は、戦国時代、島津一族の伊作家出身の島津貴久が本宗家を継いだ後の中・近世文書である。量的に大部分を占めるのは、豊臣秀吉から江戸幕府四代將軍家綱までの時期の文書で、豊臣秀吉文書222通を含んでいる。以上の文書は、本所への受け入れ当時、計19箱の黒漆塗の箱に収められており、文書数は5218通である。

三代藩主島津綱久以降の文書は、受け取ったままの形で、長持などに収納されていた。また、18世紀頃からは、藩の現用文書で後世まで保存すべきと考えられたものは、記録所に渡され、白木の箱に保存されるようになった。この文書群は、白木一番箱から十三番箱までである。この白木箱文書は、江戸時代の薩摩藩において実際にやりとりされた文書がそのまま残っているものであるから、近世古文書学の素材としてたいへん貴重なものである。また、黒漆塗箱を始め、白木箱・長持・小箱・文書筆筒などもほぼ当時のままで残されており、これらの一部は「付けたり」の形で国宝に指定され

ている。

外に、島津家歴代の系図や系譜を整理した『島津家正統系譜』、江戸幕府が諸藩に作成させた国絵図の控えやその関係文書、島津家の御家芸であった犬追物関係文書など、さまざまな種類の史料が残されている。これらを使用した研究はまだ手薄で、今後豊かな成果が期待される。

おわりに

島津家文書が本所に入ったのは、昭和30年から同32年の間である。国から文部省科学研究費の形で多額の購入費を交付されて実現したものである。この時、同時に島津家が明治以降に家史編纂する過程で蒐集あるいは作成した史料も購入している。

本所では、昭和52年から島津家文書の本

格的な整理作業を行い、同61年に手書きの『島津家文書目録』全13冊を作成した。しかし、この目録は内容を中心とした目録で、一点ごとの法量などは計測されず、また近世古文書にあまり関心が払われていない時期の作業であったため、文書名などにも不備が目立った。そのため、平成8年から文部省の科学研究費などを活用して再度文書調査に着手し、平成9年から同11年には鹿児島県から産学連携経費を交付されてようやく『島津家文書目録』3冊を刊行するとともに、文書全点のマイクロフィルム化を完成させた。こうして、島津家文書は、全国の研究者に公開されることになり、現在では多くの研究者が島津家文書を研究に利用するようになっている。

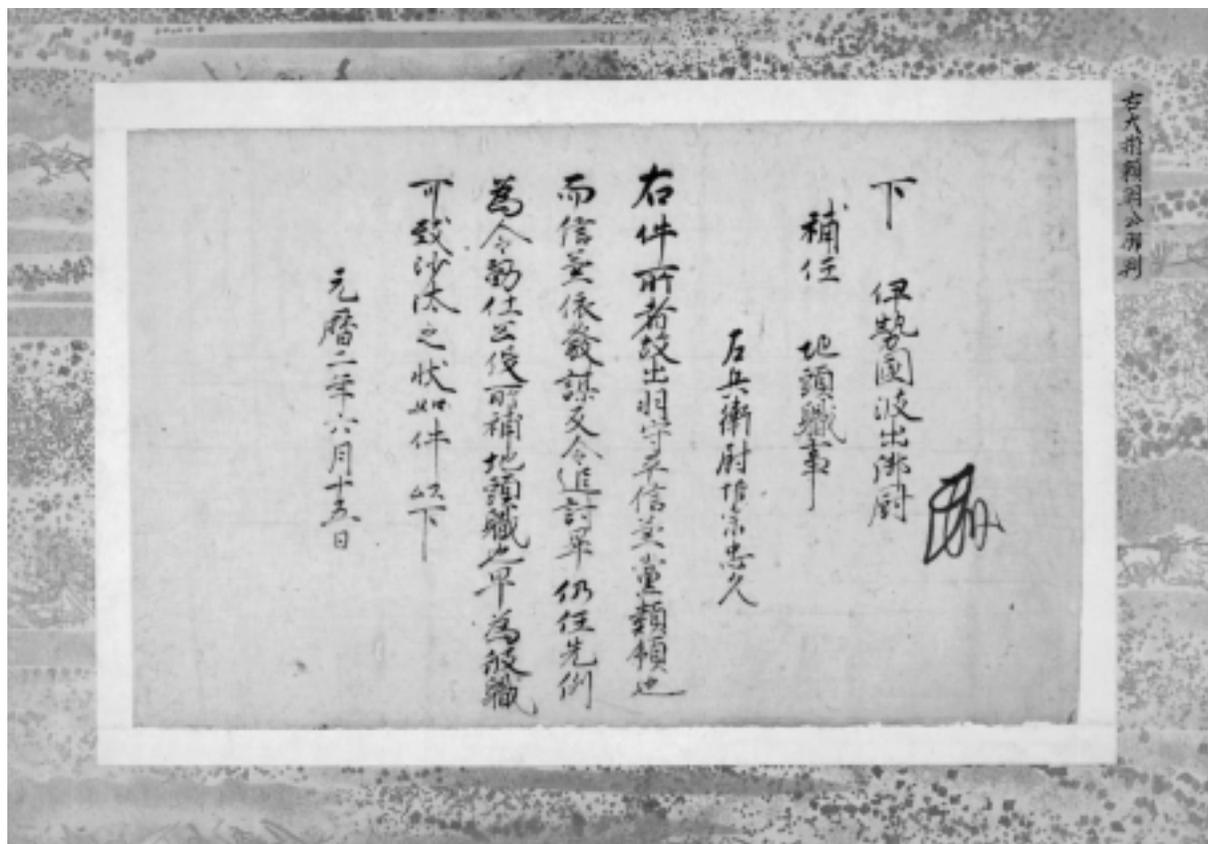


写真3 歴代龜鑑のうち源頼朝下文

経済学部図書館の予算制度改革をめぐって

大学院経済学研究科教授 廣田 功

さまざまな問題点を抱えたまま国立大学の「歴史的な改革」が動き出そうとしている。「改革」の背景や本質のとらえ方については諸説がありえるが、そこにいわゆる「新自由主義」イデオロギーの「小さな政府」論に基づく国家支出削減の意図を見出すことは容易であろう。しかしこの方向に沿った予算・人員の削減傾向は、既に以前から始まっていることである。この傾向は、情報化の進展と相まって、国立大学の図書館に大きな転換を迫っており、東京大学附属図書館は、附属図書館システム全体の歴史的転換にとりくみ、旧来の「連絡調整された分散主義」からの脱皮を図りつつある。

ところで経済学研究科では、図書予算規模の縮小傾向にともなって、近年予算執行が次第に窮屈になり、新刊の洋雑誌の購入希望に応じられないなどの問題が生じていた。これをうけて長年にわたって行われてきた図書予算と選書の方式を抜本的に見直すことが決定され、ついに昨年4月から新しい方式が導入されるにいたった。

この制度改革がめざしたことは、限られた予算を研究科スタッフの研究上のニーズにより適合的な形で使用する仕組みを作ることであった。研究グループ(カリキュラム・グループ)の代表から成る「図書選定委員会」WGを中心に、長い時間をかけて改革の具体案が検討された。新しい制度の下では、図書予算の編成は、「共通費」と「グループ別図書費」に二分された。「共通費」は、比較的多数の研究グループが希望する図書(資料・雑誌を含む)ならびに経済学関係の専門研究図書館として備えておくべき図書を購入するための予算であり、新た

に設置された「図書選定委員会」がその選書と予算執行を行う。他方、「グループ別図書費」は、図書予算の全体から「共通費」を除いたものであり、それは所属教官数に応じてグループに配分される(ただし11月末までに未消化のグループ予算は選定委員会の下で共通費と同様に執行される)。これまでの図書予算編成は、事実上「共通費」に一本化されていたので、グループ別の経費が設けられたことが最大の変更点である。

言うまでもなく、雑誌(とくに洋雑誌)の購入が共通費の最大部分を占めており、それが近年の予算硬直化の最大の要因でもあった。そこで新制度の導入と並行して雑誌購入費の節減をめざし、洋雑誌の購入に関するアンケートが実施され、購入希望が比較的多い雑誌を共通費で処理し、購入希望が少ない雑誌をグループ予算で処理することにし、あわせて学内所蔵やオンライン・ジャーナルの購入状況を考慮しながら、相当数の洋雑誌の購入が中止された。

新しい制度の下で、グループ予算の枠内でいつでも新刊の雑誌を購入することが可能となったので、改革の発端にあった不満は解消された。各教官が希望する図書を購入できるようにすることが改革の最大の狙いであったから、新方式の長所は明らかである。とはいえWGは、新方式の導入に際して教官個人の希望が充たされることだけを重視したわけではない。前述のように、共通費の設定は、専門研究図書館としての図書の購入が継続的に行われることに配慮した結果である。改革案の作成に際しては、教官のニーズへの対応と専門研究図書館としての観点を調和させることに十分な配慮

が払われたのである。

しかし長期的に見ると、新方式の導入にともなって東大経済学部図書館の質が変わる可能性に懸念がまったくないわけではない。たとえば洋雑誌を見た場合、経済学部の図書館には国内の他の図書館にはあまりない雑誌が、これまで数多く所蔵されてきた。「他の所にはなくても東大にはあるだろう」という期待は、多くの研究者がしばしば抱くことである。実際、筆者自身もかつて東大に移ってくる前、いく度かそのような経験をしたことがある。

しかし今後は、このような期待は次第に裏切られることになるかも知れない。「東大にあるのではないか」という期待に応えることを保障していたのは、経済学部所属の教官のニーズを越えて、歴史的に、広い見地から選書が行われてきたことである。もとより新方式の下でも、「専門研究図書館としての選書」という観点を拠り所として、この良き伝統を継承する余地が全くなわけではない。しかしこの観点が意味するところは、現実には、国内のメジャーな図書館にある図書は東大も所蔵していなければならないということである。予算が潤沢であれば、昔のように日本全体の研究者のことを考え、意識的に広い見地から図書を購入する余裕もあろうが、残念ながら、「他人様のことを考える」余裕はないというのが実情であろう。雑誌以外の図書・資料

についても、同様の懸念が指摘できよう。一般の図書についても、東大経済学部には他の図書館にはないものがたくさん所蔵されている。とてもその分野を専攻する教官がいたから購入されたとは思えないものが、多く所蔵されているのである。これもまた昔は予算に余裕があって、スタッフの直接の関心やニーズに囚われない広い見地から図書購入が行われた結果であろうから、今後は困難となろう。他大学の図書館にしても厳しい予算状況に変わりはあるまい。憂慮すべきは、それが長期的に見て日本全体の経済学・社会科学関係の文献・資料の蔵書に影響を与えることである。将来の研究者は、この点では、よき時代の選書の恩恵に浴するわれわれに比べて不利な研究状況に置ことになるのであろうか。

もっとも情報化は、このような懸念を杞憂に終わらせてくれるのかも知れない。現在では、国内の図書館に必要な文献が見つからないことは、すでに大きな障害ではなくなりつつある。図書館相互のインターローン、複写サービス、資料のデジタル化等が国際的に発展し、外国から短時間で必要なものを手に入れることが、すでに現実化しつつある。その場合には、日本的視野から蔵書を考える発想自体が、時代錯誤になるのかも知れない。むしろ一刻も早く、そうなって欲しいものである。

日・EUフレンドシップウィーク2003 国際資料室EU資料展「欧州統合と拡大EU」について

総合図書館 国際資料室

総合図書館国際資料室は、国連寄託図書館であるとともに、欧州連合（EU）の資料センター（EDC:European Documentation Centre）となっています。EDCは、欧州委員会から情報提供を委託されている資料センターで、世界で約500機関（日本では19機関）が指定されています。EDCの役割は、欧州委員会出版局刊行物の寄贈を受け、EUの諸問題に関する調査・研究を促進するために情報提供を行うことです。国際資料室は、1980年に指定を受けました。

日本における欧州委員会の代表機関として、駐日欧州委員会代表部が置かれたのは、1974年のことです。駐日欧州委員会代表部の役割の一つに、「日本におけるEUに対するより良い理解を醸成」することがあります。この役割を果たすための方策の一つとして、2001年から日・EUフレンドシップウィークが始まりました。日・EUフレンドシップウィークは、日本と欧州の「人と人」の交流を通してEUをより良く理解してもらうことを目的に、駐日欧州委員会代表部が毎年5月に開催する、一連のスポーツ、学術および文化などの交流イベントです。5月に開催されるのは、1950年5月9日のフランス外相ロベール・シューマンによる「シューマン宣言」がEU創設の始まりであるとされており、5月9日が「ヨーロッパ・デー」となっているからです。国際資料室も日・EUフレンドシップウィークの一環で、当初から資料室のオープン・デイとして展示会を開催しており、今年で3年目となります。他大学では今年、東北大、慶應義塾大、早稲田大、日本大、同志社大、西南学院大の6 EDCが参加しています。

中・東欧や地中海地域10ヶ国が2004年5月にEUに加盟することになり、この条約の調印が本年4月16日にアテネで行われました。今回はこれにちなみ、下記の展示会を開催しました。期間中の来観者数は、229名（内、学外者約70名）でした。

<p>名称：国際資料室EU資料展「欧州統合と拡大EU」</p> <p>期間：2003年5月15日(木)～21日(水) (土日は除く) 9:00～17:00</p> <p>場所：総合図書館3階ホール・国際資料室</p> <p>後援：駐日欧州委員会代表部</p>

展示の構成は、以下のとおりです。

- (1) 第1会場（総合図書館3階ホール）
 - ・欧州統合と拡大EUに関するパネル展示
 - EUの歴史や機構、EU拡大の歩みや加盟予定国であるチェコ、エストニア、キプロス、ラトヴィア、リトアニア、ハンガリー、マルタ、ポーランド、スロヴェニア、スロヴァキアの基礎データなどについて、8枚のパネルを作製しました。



EU加盟国と加盟予定・候補国

2004年5月1日に加盟する国は、チェコ、エストニア、リトアニア、ラトヴィア、リトアニア、ポーランド、スロバキア、スロベニアの計8か国とマルタ、キプロスの計10か国です。今回の拡大は、一斉に加盟する国の数、それぞれが持つ歴史・文化的多様性、地理的広がり、人口の多さをもっとも先例のない規模で行われます。また、10カ国もの新加入国を吸収しながら、並大抵の国内総生産がEU全体で9%しか上げられないというのも、過去の拡大とは大きく異なる点です。

	現在(15カ国)	拡大(25カ国)	増加率
人口	3億7756万人	4億8277万人	19.9%増
国土面積	3,191,120km ²	3,929,691km ²	23.1%増
国内総生産	9兆9,170億ユーロ	9兆2,210億ユーロ	4.6%増



1 map of Europe 2003 EU

作製したパネルのうちの1枚

(2) 第2会場(国際資料室)

- ・加盟予定国のポスター・パンフレット・リーフレットの展示

ポスター・パンフレット等は、加盟予定国の大使館や政府観光局から提供してもらいました。



- ・欧州統合に関する主要な条約や今回の加盟条約の展示

1952年発効の欧州石炭鉄鋼共同体設立条約(パリ条約)から本年2月発効のニース条約までの主要な条約や今回の加盟条約について、EU官報(Official Journal of the European Union)や欧州委員会出版局刊行物を中心に展示しました。

- ・EU拡大関係資料の展示
- ・EU紹介ビデオの上映
- ・利用者用端末によるEUのWebサイト(Europa Server)や駐日欧州委員会代表部WebサイトのEU拡大に関する記事の紹介

なお、今回の展示のWeb版を国際資料室ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

URL: <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/undepo/exhibition/2003/index.html>

また、昨年の日・EUフレンドシップウィークに開催しましたユーロ展についてもWeb版を掲載していますので、ご覧いただければ幸いです。

URL: http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/undepo/exhibition/2002/dgtl_tenji.html



東京大学で利用できる電子ジャーナルについて

第1回 入門編

附属図書館 情報管理課資料契約掛

本学では平成12年4月に電子ジャーナル導入実験を開始し、今年度から本格運用が始まりました。利用できるタイトル数も、実験開始時の約1,900タイトルから、現在は約5,200タイトルにまで増えました。これら学内で利用できる電子ジャーナルをより身近に感じていただくためにも、電子ジャーナルに関する様々な話題をこれから3回にわたってご紹介して参ります。

第1回目の今回は、入門編として電子ジャーナルとはどのようなものか、またその利用方法について簡単にお話します。

1. 電子ジャーナルとは

雑誌論文を電子化してコンピュータのディスプレイで見られるようにしたもので、出版社のサーバへオンラインでアクセスして利用するところからオンライン・ジャーナルとも呼ばれます。海外の学術雑誌に多く見られ、インターネットの普及に伴ってその数は増え続けています。

電子ジャーナルには有料のものと無料のものがあります。試験的に無料で公開を始めて、次第に冊子体を購読すれば電子ジャーナルが無料で利用できたり、冊子体購読に追加料金を支払うことで利用できるようなかたちで有料化が進んできました。最近では電子料金を価格の主体として冊子体購読を追加オプションとするものが増え、冊子を廃刊にして電子のみを残すものや、最初から電子のみで刊行される雑誌も増えてきています。

雑誌を電子化することで機能も向上しており、論文を検索するための検索式の保存ができたり、最新号の情報を登録したメー

ルアドレスへ送ってくれるなど、便利なサービスを提供している出版社もあります。

以下に電子ジャーナルの長所・短所を挙げておきましょう。

<長所>

- ・研究室に居ながらにして論文を読むことができる。
- ・学内であれば24時間アクセスできる。
- ・読みたい論文が早く手に入る。
- ・複数の人が同時に利用できる。
- ・リンクが張られていれば、引用論文などを簡単にたどることができる。

<短所>

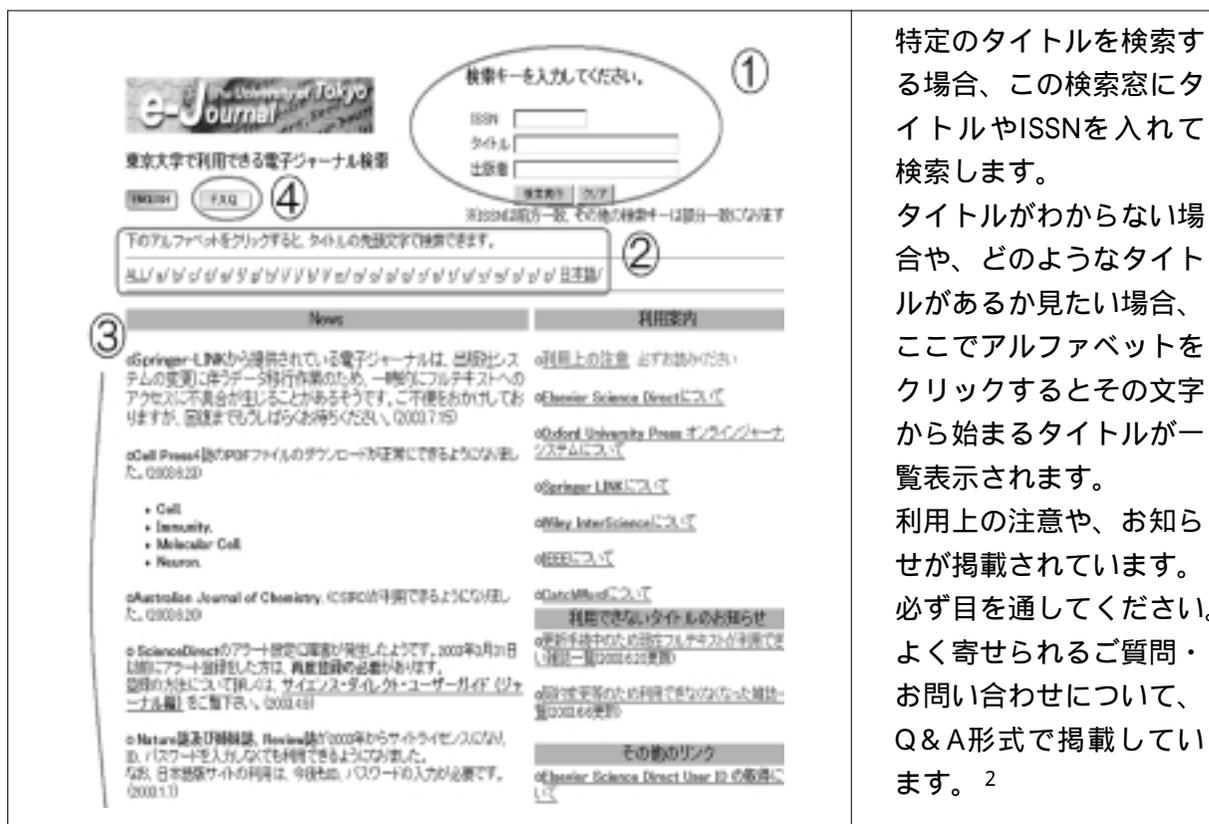
- ・利用するためには情報環境の整備が必要となる。
- ・出版社サーバやネットワークの不具合などの外部要因によってアクセスに支障が出る場合がある。
- ・契約内容によって利用範囲や条件にばらつきがある。

2. 電子ジャーナルを利用するには

本学での電子ジャーナル利用対象者は原則として東京大学の構成員となっています。また出版社との取り決めにより、機械的かつ継続的にダウンロードすると、通常適切な利用範囲を超えるとみなされ、最悪の場合、全学で利用停止ということになりますので、十分ご注意ください。

実際に電子ジャーナルを利用する際は、必ず学内の端末を使い、「東京大学で利用できる電子ジャーナル検索」

(<http://ejournal.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>)¹で検索してからご利用ください。このページ



特定のタイトルを検索する場合、この検索窓にタイトルやISSNを入れて検索します。タイトルがわからない場合や、どのようなタイトルがあるか見たい場合、ここでアルファベットをクリックするとその文字から始まるタイトルが一覧表示されます。利用上の注意や、お知らせが掲載されています。必ず目を通してください。よく寄せられるご質問・お問い合わせについて、Q&A形式で掲載しています。²

<図1>

は学内で利用できる電子ジャーナルのリンク集で、画面の構成は<図1>のようになっています。

<図1>の または から検索をして結果が表示されたら、タイトルをクリックしてください。リンクされている電子ジャーナルのページにジャンプします。その後、見たい巻号 論文と、順にクリックしていくと、論文のフルテキストを見ることができます。

論文を表示させるとき「PDF」と書かれている場合があります。この場合は論文を表示させるためのソフト「Adobe Reader (Adobe Acrobat Reader)」が必要です。Adobe Reader は Adobe 社の サイト <http://www.adobe.co.jp/> から無料でダウンロードできます。

その他、出版社ごとの詳しい利用方法は「東京大学で利用できる電子ジャーナル検索」の利用案内でご確認ください。

また、情報基盤センター学術情報リテラ

シー掛によるデータベース定期講習会でも電子ジャーナルの利用についてご紹介していますので、ぜひご参加ください。

講習会の日程等は <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/index.html> でご確認ください。

3. 利用できる範囲

「東京大学で利用できる電子ジャーナル検索」にリンクされているタイトルであっても、古い巻号は契約の範囲外であったり、電子ジャーナル化されていないなどの理由で利用できないものがあります。その場合は冊子体をご利用ください。「東京大学で利用できる電子ジャーナル検索」は学内のオンライン蔵書目録データベース(OPAC)とも連動しています。検索結果表示画面で該当タイトル横の「OPAC」と書かれたボタンをクリックするとOPACの該当雑誌検索結果が表示され、学内での冊子体所蔵の有無がわかります。学内に所蔵が無い場合

Human heredity
 巻次年月次 19 (1969)-
 出版者 Basel
 変遷注記 継続前誌:Acta genetica et statistica medica
 コード類 ISSN=00015652 書誌ID=30019347 NCID=AA0060

【前画面 | はじめから検索しなおす | この画面の見方】

【受入状況】

所蔵巻号	年次	所在
19-54+	1969-2002	医図
19-49	1969-1999	理・人類図

【前画面 | 受入状況】

附属図書館 | 情報基盤センター図書館電子化部門 | 東京大学 | 所蔵館
 東京大学情報基盤センター学術情報リテラシー課
 library@lib.u-tokyo.ac.jp

e-Journal
 東京大学で利用できる電子ジャーナル検索
 ヒット件数: 1件

No.	Title	Publisher	Country	ISSN	Hold Note
1	Human Heredity	Karger	sw	0001-5652	

一部のタイトルは、アクセス時にユーザID、パスワードが必要です。
 アクセスに必要なID、パスワード等の情報については、各タイトルの右端にある「**ID**」をクリックしてください。

戻る

利用できる電子ジャーナルがあれば、このように表示されます。

< 図 2 >

は学外へ文献複写を依頼することもできますので、ご所属の図書館（室）へお問い合わせください。

また、< 図 2 > のように OPAC で雑誌を検索し、詳細表示すると、「e-journal」と書かれた黄色いボタンが表示されている場合があります。このボタンをクリックすると「東京大学で利用できる電子ジャーナル検索」の検索結果が表示されます（ただし学内で電子ジャーナルが見られないもの、電子ジャーナルが存在しないものは「ヒット件数：0 件」と表示されます）。

4. 新たに追加を希望するとき

約 5 200 タイトルが利用可能な状態であるとはいえ、「東京大学で利用できる電子ジャーナル検索」へのタイトル追加のご要望は日々寄せられています。

学内で既に冊子体を購読しているものに無料の電子ジャーナルが付いている場合は、比較的容易に追加できますが、有料の電子ジャーナルの場合には、それを全学で経費負担するものとして導入するかどうかを毎年、図書行政商議会の下に設けられたサービス特別委員会で検討することとなっています。

新たにタイトル追加をご希望の場合は、ご所属の部局図書館（室）にご相談いただくか、ejournal@lib.u-tokyo.ac.jp宛てに導入希望のメールをお寄せください。

タイトル追加以外にも、電子ジャーナルについてのご質問・ご相談がありましたら ejournal@lib.u-tokyo.ac.jpまでメールをお送りください。

今回は、東京大学では電子ジャーナルがどのような過程を経て皆様にご覧いただけるようになるのか、その舞台裏の模様をお届けいたします。

- 1 「東京大学で利用できる電子ジャーナル検索」へは附属図書館ホームページ (<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>) からリンクが張られています。
- 2 現在 F.A.Q (よくある質問) は、③「利用案内」のもとへ移動しました。

論文作成に役立つツール - 文献管理ソフトの話 - 図書館利用入門講座（付録）

情報基盤センター 学術情報リテラシー掛

本誌Vol. 41, No. 4 (2002.10) からVol. 42, No. 1 (2003.2) まで、「図書館利用入門講座」4回シリーズで、東京大学図書館での本や雑誌の探し方、東京大学で利用できるデータベースの使い方など、文献情報の集め方を紹介してきました。

今回はデータベースを使って集めた文献情報データを管理し、レポート・論文を作成するときに必要な参考文献リストを簡単に作成する文献管理ソフトについてお話しします。

レポート・論文を作成するときには、自分の意見が大事なことはもとより、先行研究の成果をふまえることも重要です。また、利用した資料は明記する義務があります。

集めた文献情報を管理するには、文献カードを作成すると便利です。では、データベースを使って集めた文献情報データをパソコンを使って管理するには、どんな方法があるのでしょうか。

1. ワープロソフトやエディタソフトを使って、ダウンロードしたデータをそのままの形で編集・加工、印刷する。
2. データベース・ソフトを使って、パーソナル・データベースを作成する。
3. 文献管理を目的として作られたソフトウェア (= 文献管理ソフト) を使う。

データを管理するデータベース・ソフトには、Access や FileMakerPro などがありますが、それらのデータベース・ソフトに比べ、文献管理ソフトは、論文の執筆のための参考文献の保存、管理、編集を目的としているので、次のような便利な機能を持っています。

文献管理ソフトの便利な機能

- 1 データベースを検索し、集めた文献情報データを簡単に取り込めるダウンロードやエクスポート機能
- 2 文献情報データのソート・検索など文献データベースとしての機能
- 3 レポート・論文作成のときに、参考文献リストが簡単に作成できる自動生成機能

文献管理ソフトとして市販されているもので、定評のあるものには、次のものがあります。

商品名	対応	定価(円)
EndNote	Mac, Win	49,000
GetAref (学生版)	Win	19,800 12,800
ProCite	Mac	54,000
Reference Magager	Win	54,000

これらのソフトは次のような機能を備えています。

- ・PubMed, CAS, Web of Scienceなどのデータベースを検索し、検索結果を自動取込する。
- ・電子ジャーナルの普及に伴いイメージデータの取込機能がある。
- ・文中の引用文献と巻末の参考文献リストを自動生成する。
- ・主要海外学会誌や学術雑誌の投稿規程に対応している。

市販されているソフトは便利な機能を備えている反面、高価でもあります。一方、基本的な機能をもったフリーソフトもあります。ここでは基本的なデータベース機能に加えて、論文に添付する参考文献リストの作成、文献データベースの自動読み込み機能を持つ、「Bunso(文想)」(Windows用)について簡単に紹介します。

次のサイトからダウンロードできます。

Bunso:

<http://hp.vector.co.jp/authors/VA005818/>

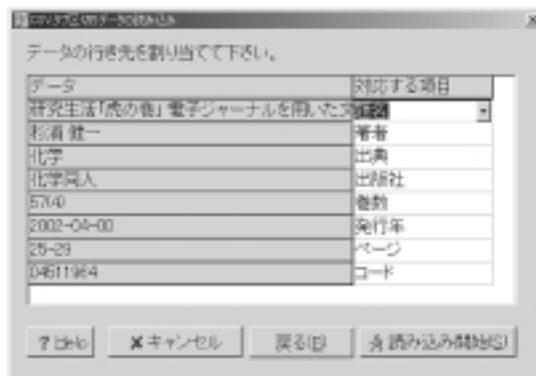


○便利な機能 1

データベースを検索し、集めた文献情報データを簡単に取り込めるダウンロードやエクスポート機能がある。

Bunsoは、Medline、医中誌などデータベースの検索結果を自動読み込みすることができます。また、コンマ区切り、タブ区切り(Excel)にも対応しています。

東京大学情報基盤センターが提供するFELIX(ジャーナルコンテンツ・データベース)は、検索結果をテキスト形式でダウンロードできますので、検索結果を簡単にBunsoに取り込めます。



対応する項目を選んで、「読み込み開始」ボタンを押す



一覧表画面(上)とカード画面(下)があります。



カード画面では入力スペースのレイアウトを自由に設定できます。見出しの変更、テキストボックスのサイズ変更、不要なテキストボックスの削除などが可能です。

医学系の文献を整理するのにBunsoを利用したい方は、九州大学医学図書館が提供する「医系学生・研究者のための情報検索・文献管理ガイド」をご覧ください。

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/libinf/med/mir.html>

ここではPubMedを検索し、検索結果をBunsoに取り込む方法が画面例を使いながら丁寧に紹介されています。

また、法学系については、九州大学大学院法学府 公法・社会法学専攻原田大樹さんが提供している「Bunsoについて(法学テンプレートの利用方法)」をご覧ください。

<http://www.law.kyushu-u.ac.jp/taiki/research/bunso.html>

○便利な機能 2

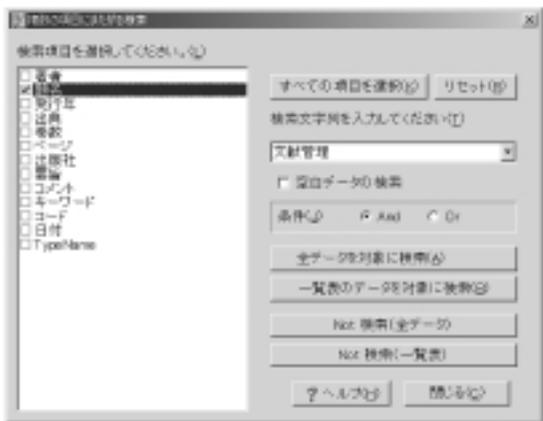
文献情報データのソート・検索などの文献データベースとしての機能がある。

ソートのボタンを押すと、ソート項目が3つまで選べます。

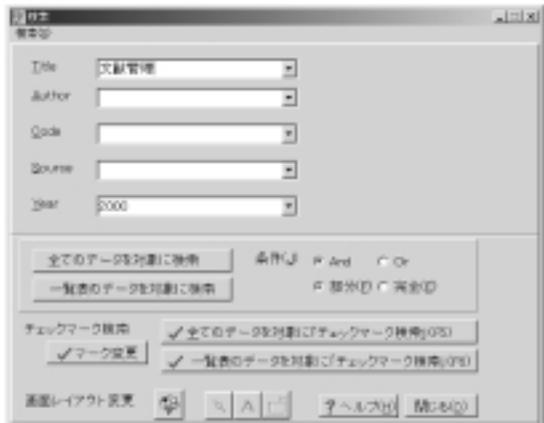


検索には、項目(複数可)を指定して検索する方法と2つ以上の条件を指定する検索する方法があります。

題名に「文献管理」を含むものを検索する。



2000年に出版された論題に「文献管理」を含む文献を検索する。



○便利な機能 3

レポート・論文を作成するときに、参考文献リストが簡単に作成できる自動生成機能がある。

MS Wordと協調して、本文を書きながら引用文献リストが作成できます。

あらかじめ本文中に文献IDを{ ID15 }のように挿入しておき、このMS Wordの文書をBunsoに読み込ませると、自動的に本文に対応した文献リストを作成します。本

文に挿入された文献IDは自動的に「文献番号」などに置き換わり、この文献番号付きのファイルは、別名で保存されます。

また、著者の記述形式など引用形式は、投稿する雑誌や分野によって異なりますが、Bunsoではこのレイアウトも自由に設定することができます。

その他の機能や詳しい使い方は、Bunsoのヘルプをご覧ください。

* * * * *

様々なデータベースから効率的に集めた文献情報データを、便利な機能をもつ文献管理ソフトを使って管理し、レポート・論文の作成に役立てていただきたいと思えます。

東京大学が提供するデータベースのうち、

OPAC、FELIX、Web of Scienceや電子ジャーナルサービスを効率的に使っていただくため、情報基盤センター学術情報リテラシー掛では「データベース定期講習会」を開催しております。お気軽にご参加ください。

データベース定期講習会の日程は、次のURLから確認できます。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/>

また、ご希望に合わせた内容、日時で研究室までお伺いする「データベース出張講習会」も承ります。授業やゼミなどで、どうぞご利用ください。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/shuccho.html>

図書館（室）ニュース

常設展「総合図書館の文物」について

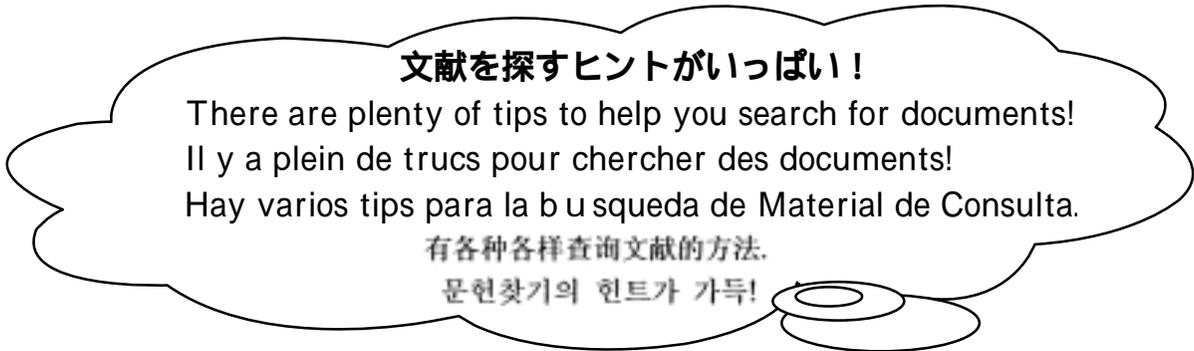
総合図書館の常設展示は、7月から「総合図書館の文物」に変わりました。大正12年、関東大震災で倒壊・炎上した前後の様子や再建された新図書館と、今に残る文物を紹介するものです。学習や研究の合間に、図書館を見直してごらんください。

経済学部図書館の利用について

経済学部図書館では、赤門総合研究棟改修工事のため、一部資料が利用できませんでしたが、8月25日より全ての資料の利用が可能となりましたので、お知らせします。長い間ご不便をおかけいたしました。

「ネットでアカデミック on Web」の改訂と多言語版の作成について

情報基盤センター 学術情報リテラシー掛



情報基盤センター学術情報リテラシー掛では、情報リテラシー支援の一環として、平成13年度に公開した「ネットでアカデミック on Web」に新たなデータベースやサービスを追加する改訂作業を行いました。

《新たに加わったデータベース》

- ・「多言語対応版OPAC」
平成13年度3月からサービスを開始
- ・「Webcat Plus」(国立情報学研究所)
平成14年10月に公開

この「ネットでアカデミック on Web」は、ネットワークやデータベースを使った文献資料の探し方をわかりやすく解説した電子版テキストです。

初めてデータベースを利用する方から、論文作成に備えて本格的な文献調査を必要とされる方まで幅広く役立つコンテンツです。学内・学外を問わず、インターネットでどこからでもご利用いただけます。

<http://literacy.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/wack/>



言語選択部分 (拡大)

ネットでアカデミック on Web
トップ画面 (日本語版)

今回、日本語・英語版に加えて、留学生の方に幅広くお使いいただけるよう中国語・韓国語・フランス語・スペイン語の4ヶ国語版を追加作成しました。

また、これまで公開してきた2ヶ国語版では共通して、コンテンツ中のデータベース検索例に日本語版の画像を使用してきましたが、さらに便利にお使いいただけるよう改訂後の英語版、追加作成した4ヶ国語(中・韓・仏・西語)のコンテンツ中では、英語の検索画面を用いました。

各国語版画面



さらに内容の充実した「ネットでアカデミック on Web」を、自学自習用として、あるいは授業での補助教材として、ぜひご活用ください。

携帯電話OPACに新しい機能が増えました

情報基盤センター 学術情報リテラシー掛

携帯電話での東京大学蔵書目録(OPAC)の検索サービスが新しくなりました。

今までのキーワードによる目録検索に加えて、次のWebリクエストサービスの一部機能が使えるようになりました。

- ・現在借りている本・返却期限の確認
- ・他の人が借りている本が必要な場合の貸出予約申し込み
- ・Webリクエストにより依頼した本やコピー取り寄せの状況確認
- ・Webリクエストからの購入依頼した本の状況確認

では、機能を紹介します。なお、画面例は実際のものとデザイン等異なる場合があります。

1. 機能を選ぶ

接続URLは従来と同じです。

<http://mg.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/i/>

接続すると、メニュー画面が出てきます。

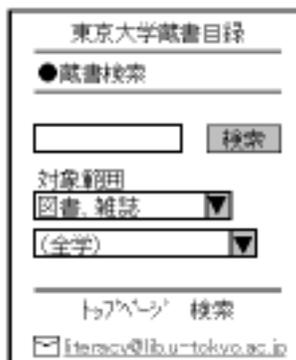


画面最下行の literacy@lib.u-tokyo.ac.jp は、利用に関する問合せ先です。各画面共

通に表示されます。

それぞれの項へカーソルを移動するか、数字キー入力で各ページへ遷移します。

2. 本・雑誌を探す



キーワードを入力し、検索します。本・雑誌を区別した検索、所蔵場所(例: 駒場図書館)を限定した検索ができます。

検索結果一覧から必要な書名・雑誌名の番号を押すと詳細が表示されます。



指定のメールアドレスへ検索結果を転送する機能もこれまでのi-modeOPACと同じです。

3. どの図書館にあるか確認する / 貸出予約の申し込みをする

検索結果一覧から、数字キーにより本を選択すると、詳細と所蔵一覧が表示されます。所蔵一覧で所在場所(例:駒場図書館)を特定して、請求記号(本が置いてある場所を示す記号)を表示させます。

他の人が借りている本は、予約申込ができません。

利用者ID、パスワードにより認証を受けた後、予約申込画面へ進みます。

利用者IDは、東京大学附属図書館利用証

(または東京大学総合図書館・教養学部図書館等利用証)に表示されている8桁の番号です。利用証作成時に、初期パスワードが設定されています。初期パスワード、パスワードの変更のお問い合わせは、利用証を作成した図書館(室)カウンターへお尋ねください。

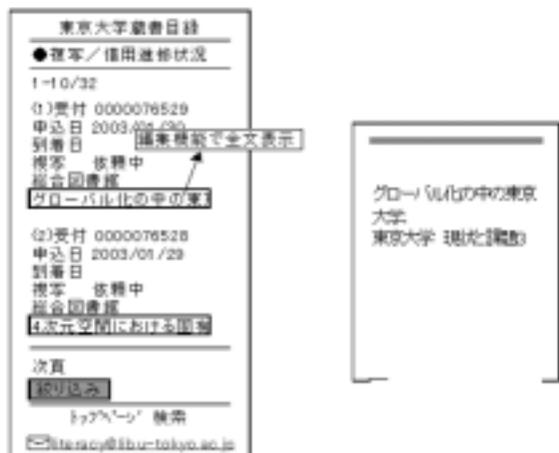
4. 本の購入申込状況を照会する

貸出予約と同様の利用者ID、パスワード認証の後、教官購入申込、教官推薦図書申込、学生希望図書申込の状況確認ができます。

複数の申込がある場合、絞り込みができません。

5. 文献コピー・借用進捗状況を確認する

文献コピーや図書貸借をWebリクエストサービスから利用した人は、携帯OPACからその処理状況が確認できます。申込そのものは携帯端末からはできません。

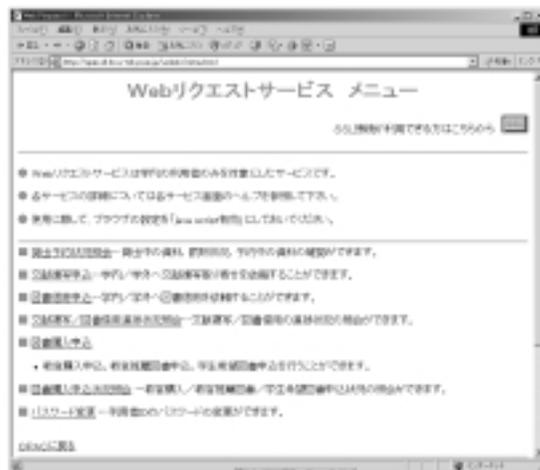


Webリクエストサービスは、図書館(室)によって取り扱いが異なります。文献複写・図書借用に関するページで確認してください。

https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/webill/help/ill_help.html

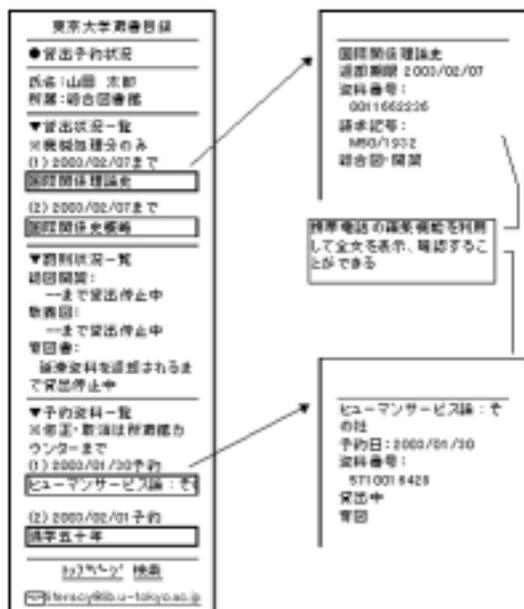
これらはすべて、現在、OPACにおいて、Webから利用可能な機能ではありますが、今回の携帯OPACの機能リニューアルにより、さらにより多くの方々実際に利用いただき、学習・研究に役立てていただければ幸いです。

<https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/uxbok/menu.html>



https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/webill/help/ill_help.html

6. 貸出や予約状況を確認する



9月～10月のデータベース定期講習会のお知らせ

文献調査のヒントが
いっぱい!!

- 学んで触れて探し出そう! -

情報基盤センター 学術情報リテラシー掛

会場：総合図書館 1階 メディアプラザ 講習会コーナー

定員：各回12名です。(予約は不要です。時間までに会場へ直接集合してください。)

コース名	内 容
入門コース	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で指定された文献や参考文献リストに記載された文献の所在調査のテクニックを習得することを目的とします。 ・OPACなど基本的なデータベースを使った検索実習を中心とします。
実践コース(1) 文献データベース	<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌記事索引データベースをはじめ、各専門分野の文献データベースの検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
実践コース(2) 引用索引データベース (Web of Science)	<ul style="list-style-type: none"> ・引用索引データベース(Web of Science)の検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
実践コース(3) 電子ジャーナル	<ul style="list-style-type: none"> ・東京大学で利用できる代表的な電子ジャーナルの利用方法について紹介すると共に、各種データベースを用いた文献検索の実践演習を行います。

New!

スケジュール (2003年9月～10月)

ご都合の良い時間帯を選んでどうぞご参加ください。(11:00-12:00、15:00-16:00、18:00-19:00)

月	火	水	木	金
9 / 1	9 / 2 11:00-12:00 入門	9 / 3	9 / 4 18:00-19:00 実践(1)	9 / 5
9 / 8 11:00-12:00 実践(2)	9 / 9	9 / 10 11:00-12:00 実践(3)	9 / 11	9 / 12 15:00-16:00 実践(1)
9 / 15 休日	9 / 16 18:00-19:00 実践(2)	9 / 17	9 / 18 15:00-16:00 入門	9 / 19
9 / 22 18:00-19:00 実践(1)	9 / 23 休日	9 / 24 15:00-16:00 実践(2)	9 / 25 休館日	9 / 26 18:00-19:00 実践(3)
9 / 29	9 / 30 11:00-12:00 実践(1)	10 / 1	10 / 2 11:00-12:00 実践(2)	10 / 3
10 / 6 11:00-12:00 入門	10 / 7	10 / 8 15:00-16:00 実践(1)	10 / 9	10 / 10 18:00-19:00 実践(2)
10 / 13 休日	10 / 14 15:00-16:00 実践(3)	10 / 15	10 / 16 18:00-19:00 実践(1)	10 / 17
10 / 20 15:00-16:00 実践(2)	10 / 21	10 / 22 18:00-19:00 入門	10 / 23 休館日	10 / 24 11:00-12:00 実践(1)
10 / 27	10 / 28 11:00-12:00 実践(2)	10 / 29	10 / 30 11:00-12:00 実践(3)	10 / 31

(都合により開催日時を変更する場合があります。スケジュールはホームページ等でもご確認ください。)

ご要望に応じた内容で出張講習会もいたします。授業やゼミ単位でお申し込みください。

お問い合わせ先：情報基盤センター学術情報リテラシー掛(内線22649)

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai>

平成14年度東京大学附属図書館統計表

	職員数		蔵書数					
			図書			逐次刊行物		
	定員内 (人)	定員外 (人)	和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)
大学院法学政治学研究科・法学部研究室	16	8	220,720	369,758	590,478	1,402	1,767	3,169
法学部附属外国法文献センター	2	0	0	70,141	70,141	0	79	79
法学部附属近代日本法政史料センター	2	1	53,756	798	54,554	6,820	29	6,849
医学図書館	12	15	101,659	202,383	304,042	3,047	4,906	7,953
大学院工学系研究科・工学部図書室(16室)	16	16	141,339	242,452	383,791	3,622	4,296	7,918
大学院人文社会系研究科・文学部図書室	8	13	391,082	440,257	831,339	6,164	3,982	10,146
大学院理学系研究科・理学部図書室(8室)	10	7	37,106	195,506	232,612	2,643	5,513	8,156
農学生命科学図書館	14	9	216,424	163,578	380,002	6,060	5,415	11,475
経済学部図書館	13	18	397,724	295,602	693,326	7,100	4,795	11,895
駒場図書館(含む自然科学図書室)	20	16	500,639	512,108	1,012,747	2,374	2,168	4,542
アメリカ太平洋地域研究センター	1	3	4,230	60,452	64,682	70	143	213
大学院教育学研究科・教育学部図書室	4	2	60,815	56,350	117,165	2,265	943	3,208
薬学図書館	2	1	8,808	27,357	36,165	248	286	534
大学院数理科学研究科図書室	3	3	12,745	124,914	137,659	154	1,294	1,448
大学院情報理工学系研究科	1	0	2,837	14,484	17,321	269	304	573
大学院新領域創成科学研究科	0	1	4,523	1,697	6,220	6	76	82
医科学研究所図書室	2	1	9,622	53,750	63,372	320	962	1,282
地震研究所図書室	3	1	18,865	30,514	49,379	880	809	1,689
東洋文化研究所図書室	8	4	456,134	149,150	605,284	3,746	1,843	5,589
社会科学研究所図書室	9	2	179,753	123,078	302,831	1,243	553	1,796
社会情報研究所図書室	4	4	55,745	43,324	99,069	596	447	1,043
情報メディア研究資料センター			7,588	4,697	12,285	0	0	0
生産技術研究所図書室	4	0	60,480	97,791	158,271	943	1,283	2,226
史料編纂所図書室	9	5	465,362	13,180	478,542	2,081	181	2,262
分子細胞生物学研究所図書室	1	2	1,067	19,810	20,877	29	380	409
宇宙線研究所図書室	2	2	1,400	18,609	20,009	22	218	240
物性研究所図書室			8,446	53,465	61,911	79	583	662
海洋研究所図書室	2	1	8,622	29,516	38,138	1,064	845	1,909
情報基盤センター共同利用掛情報資料室	1	0	4,535	3,778	8,313	63	88	151
総合研究博物館図書室	1	1	2,814	2,088	4,902	2,142	659	2,801
アイソトープ総合センター図書室	0	2	1,062	1,005	2,067	35	32	67
先端科学技術研究センター図書室	2	2	18,874	54,730	73,604	267	1,272	1,539
計	172	140	3,454,776	3,476,322	6,931,098	55,754	46,151	101,905
総合図書館	44	27	712,032	469,205	1,181,237	11,673	14,158	25,831
総計	216	167	4,166,808	3,945,527	8,112,335	67,427	60,309	127,736
参考(平成13年度総計)	222	164	4,242,951	3,788,261	8,031,212	64,293	64,401	128,694

* 職員数は平成15年5月1日現在(情報基盤センター・総合研究博物館は兼任)

平成15年3月31日現在

資料費 総数 (千円)	受 入 資 料 数								館外貸出 (冊)	相互利用 (文献複写)	
	図 書				逐 次 刊 行 物					受 付 (件)	依 頼 (件)
	和 書 (冊)	洋 書 (冊)	合 計 (冊)	内購入	和 文 (種)	欧 文 (種)	合 計 (種)	内購入			
206,623	5,637	9,298	14,935	11,486	736	1,043	1,779	1,258	0	534	191
44,352	0	1,738	1,738	1,257	0	79	79	79	0	319	4
3,268	248	0	248	4	0	0	0	0	0	245	0
86,779	1,529	2,309	3,838	777	956	848	1,804	879	20,181	12,724	7,251
154,242	1,447	3,663	5,110	3,991	1,768	1,104	2,872	1,493	38,637	7,243	6,390
181,960	8,854	10,620	19,474	15,155	3,289	1,764	5,053	2,583	12,363	1,811	786
116,931	561	3,648	4,209	835	897	1,462	2,359	672	34,900	307	515
119,892	2,769	3,075	5,844	2,320	1,951	1,778	3,729	1,672	24,047	21,050	1,389
73,999	5,730	3,193	8,923	3,948	684	537	1,221	520	24,824	789	149
182,521	5,715	7,978	13,693	10,022	1,794	1,774	3,568	2,030	79,643	978	1,897
4,667	362	783	1,145	985	70	143	213	87	3,233	0	0
20,620	1,984	918	2,902	891	922	306	1,228	454	12,059	1,173	504
24,145	215	652	867	82	104	121	225	116	2,217	34	334
59,316	186	1,917	2,103	1,121	41	612	653	334	5,452	597	225
18,073	267	1,046	1,313	1,046	105	178	283	254	2,456	125	20
16,609	815	499	1,314	1,082	0	60	60	60	45	0	49
36,092	30	1,479	1,509	133	11	138	149	127	6,971	465	515
22,481	226	459	685	69	571	565	1,136	205	1,169	28	64
42,016	5,551	6,026	11,577	7,745	567	1,028	1,595	843	0	614	71
33,898	3,171	2,403	5,574	2,830	517	430	947	393	9,538	450	45
8,341	573	308	881	621	210	147	357	218	5,592	753	92
13,155	246	12	258	154	246	12	258	154	0	286	0
41,000	220	114	334	237	428	419	847	390	1,474	851	2,387
27,585	4,299	326	4,625	1,413	958	15	973	99	0	101	2
14,407	73	582	655	655	230	106	336	69	231	318	99
27,691	6	129	135	128	15	81	96	90	121	56	4
60,411	93	1,076	1,169	1,157	39	170	209	198	868	128	30
29,330	66	669	735	104	736	453	1,189	191	2,151	1,033	707
5,480	4	0	4	0	29	48	77	68	130	0	0
27	317	17	334	1	644	98	742	0	0	0	0
508	31	13	44	22	5	3	8	3	15	0	0
2,301	116	303	419	342	16	6	22	10	521	196	1,324
1,678,720	51,341	65,253	116,594	70,613	18,539	15,528	34,067	15,549	288,838	53,208	25,044
101,275	10,952	3,400	14,352	4,255	2,959	681	3,640	333	108,421	15,154	29
1,779,995	62,293	68,653	130,946	74,868	21,498	16,209	37,707	15,882	397,259	68,362	25,073
1,761,618	70,934	70,909	141,843	76,695	21,183	16,767	37,950	16,041	459,473	55,437	19,506

法学部研究室図書室がちょっと変わったのをご存知でしょうか

一番大きく変わった点は、今まで法文3号館1階と4号館3階の2箇所に分れていた入口が法文4号館3階に一本化されたことでしょうか。そして、一部資料の移動とともに閲覧室も移りました。

これまで3階の継続資料室には雑誌・紀要類・参考図書とともに官報・議会議事録等が配架されていましたが、資料の増加のため書架に納めきれない状況となっていました。これを解消するための集密書架の設置について学内予算の配分を希望していたところ、昨年度に認められましたので、2月より工事・移動作業が行われました。

まず、3階の3号館部分に置かれていた官報・議会議事録等を一時他の場所に移し、図書利用のための窓口・カウンター・閲覧室のあった3号館1階に集密書架を設置しました。これとともに、図書利用のカウンター・閲覧室はそのまま3階へ引越し。雑誌担当の継続資料室カウンターと、図書利用のための閲覧カウンターはこれまでどおり2箇所に分れていますが、ともに3階に置かれ、法文4号館3階から入ってご利用いただけるようになりました。同じフロアにカウンターが二つあり、利用者の皆さんにはわかりにくい面がありますが、2004年4月からは図書閲覧掛と継続資料班のカウンターを統合して、図書閲覧掛カウンターですべての利用者に対応し、利用者の皆さん

の1層の便をはかるべく、今、検討を進めています。

カウンターの移動のあと、閲覧室は3月6日から利用を再開しましたが、集密書架の設置には3月下旬までの日時を要したため、別置していた資料の再移動作業は4月に入ってからとなりました。

利用停止となっていた官報・議会議事録等を集密書架に納め、こちらは5月から利用できるようになっています。ただし、書庫の中に移したため、閲覧室内にある図書担当のカウンターで資料を出し入れすることになります。ご利用希望の資料を「閲覧票」にご記入のうえ、入口からは少し奥にあります閲覧掛のカウンターへお申し込みください。

最後に、法学部研究室図書室の利用についての注意を少し。まず、図書室の資料の貸出はしておりません。また、書庫に配架されている資料すべてがOPACで検索できるわけではありません。他のデータベース、蔵書目録などで法学部研究室図書室所蔵となっている資料で、OPACでは見つからない資料がありましたら、法文3号館1階にある目録カードも調べてみてください。3階の閲覧カウンターでのお申し込みの際には、資料名・著者などとともに図書の請求記号も必要ですので、OPACや目録カードでご確認のうえご利用ください。

「附属図書館ホームページ」(URL: <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>) もご覧ください。

編集室 だより

これまでの体験をふり返ってみると、「いい出会い」とは、後になって実感することが多いような気がします。今日これから、図書館で出会う本や雑誌、そして言葉たちは、もしかしたら後々に光るものになるのかもしれない。そんな出会いのお手伝い如果能ければ、図書館で働くものとしてこれほど嬉しいことはありません。(武居)

東京大学附属図書館報「図書館の窓」Vol. 42 No. 4(通巻412号) 2003年9月1日発行

発行人 笹川郁夫 編集委員 委員長・内島秀樹 副委員長・松家久美 委員・谷 ゆき・坂牧一博・武居(滝澤)総子・小野澤さわ子・小山憲司・高橋 努

東京大学附属図書館発行 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 電話 03(5841)2612